

桜町児童ショートステイ第三者評価受審

桜町児童ショートステイは障害児の在宅生活支援として未就学児から高校生までの幅広い年代の短期入所及び日中一時支援を行っています。

このたび令和元年度の東京都福祉サービス第三者評価を受審しました。第三者評価とは、都が指定した評価者から見た評価結果を幅広く公表することにより利用者に対する情報提供を行うとともに、事業者のサービスの質の向上への取り組みを促し、利用者本位の福祉の実現を目指すものです。詳しい評価結果は「とうきょう福祉ナビゲーション」のサイトで公表しています。



新型コロナウイルス感染症対策へのご寄付に感謝します

新型コロナウイルス感染症の流行により医療用防護物品の不足が懸念され、当院でも様々な工夫をしながら節約して使用してまいりました。そんな中、様々な方から医療用のマスクや手作りのフェイスシールド等のご寄付を賜りました。病院職員一同、皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。頂戴しました物資は大切に使用させていただき、これからも皆様に安全で安心な医療を提供できますように努力していきたいと存じます。ご支援、誠にありがとうございました。



ご存知ですか？

手指衛生 ～手洗いにはタイミングが大切です

新型コロナウイルス対策、一番大事な「手指衛生」！

手を洗うことについては、皆さんもご存じだと思います。手指衛生には、「流水と石けん」「擦式アルコール消毒剤」による方法があります。では、どのタイミングで実施するのがいいのかを考えてみましょう。ウイルスや細菌がどうやって身体に侵入してくるのかを考えると、自分の手がその侵入口に触れる前に実施すればいいのです。今でしたら、

- ご飯を食べる前 ●トイレに入る前と終わった後 ●顔を触る前
- マスクをつける前と、外した後 などです。

また、知らず知らずに「手」についてしまったウイルスや細菌を他へ運んでいかないように、手を洗いましょう。外から帰ったら「手を洗う」ことは、家にウイルスを持ち込まないという感染対策のひとつです。

編集後記 前号では令和初年が、災害のない平和な幸せがいっぱいの年になることを望んでいますと本年に希望と期待を込めておりました。その期待を裏切り、新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、世の中をすっかり変えてしまった感があります。今後どのようなか見通せませんが、感染しないよう、感染させないよう十分に気を付けましょう。さくら第29号をお届けします。新型コロナウイルス感染症に関する当院の取り組みの状況について、感染管理の中心的な役割を担っていただいている先生と看護師に執筆していただきました。(周)

〒184-8511 東京都小金井市桜町 1-2-20 / TEL042-383-4111 (代) <http://www.sakuramachi-hp.or.jp/>

基本理念

私たちはキリストのように人を愛し 病める人、苦しむ人 もっとも弱い人に奉仕します

基本方針

1. 地域の医療機関や福祉施設と密接な連携を保ち、地域に根ざした信頼される病院運営をめざします。
2. 患者さんの全人的（身体的、精神的、社会的、霊的）ケアを行います。
3. 医療従事者の力を結集した患者さん中心の総合的なチーム医療を行います。
4. 常に自己研鑽に努め、質の高い、安全・安心な医療を提供します。
5. 患者さんの声に誠心誠意耳を傾けます。

Close Up!

新型コロナウイルス (COVID-19) について

呼吸器内科部長 / 感染管理委員会委員長
楠本 洋

昨年末から中国武漢で始まった (COVID-19: Coronavirus Disease 2019) とは、重症肺炎を引き起こす新型コロナウイルスによる病気です。COVID-19 は、世界中で感染拡大 (パンデミック) を起こし、人類の脅威となっています。その正体が (重症急性呼吸器症候群コロナウイルス2型、SARS-CoV-2) であり、人から人への感染方法が (飛沫感染、接触感染) であると分かってからは、3密 (密閉空間、密集場所、密接場面) を避け、緊急事態宣言で自粛 (ステイホーム) し、社会は以前とは全く異なる様相を呈しています。公共の場や電車、バスではもちろん、殆どの方が常時マスクを着けています。毎日の患者数や死亡者数が話題になるなど、全世界の人々の関心がこの病気に向けられています。

当院でも、1月末から臨時感染委員会を開き、ウイルス感染の情報収集や、感染予防対策を開始しています。まずは、体温測定を入り口で施行し、感染されていると思われる方々を、別のエリアで対応する。来院する方々には、全員にマスク着用の協力を頂く。手指消毒を逐一徹底する。感染を発症すると重篤になる可能性のある方との接触が無いようにする (このような対応をゾーニングと言います)。来院者を、極力本当に医療が必要な方々に絞り、面会を制限することを開始。そして、どうしても発熱、倦怠感、呼

吸症状 (咳、息切れ等) があり診察が必要となる方々には、院内には入って頂かず、別ルートから特別な部屋 (ゾーニング室) に誘導し診療を開始しました (7月中旬までに約70名の対応をし、COVID-19 が強く疑われる場合は、PCR検査のできる高次病院にご紹介をしています)。

5月25日の緊急事態宣言解除後、経済活動が再開され、20～30歳の若者から徐々に増加し、新宿や池袋の夜の社交場でクラスター (集団) 感染が発生しました。当初は軽症が多く、重症者の数からみて逼迫した状況ではありませんでしたが、残念ながら約2か月の間に、子供から中高年者までに広がり、入院病床に余裕が無い状態になりつつあります。一日の患者数では、東京は7月23日には366人と急増し、また日本全国でも1千人近くに患者が増加し、第2波が到来していると思われます。8月に入れば、免疫力の低下している高齢者や、糖尿病や循環器疾患等の持病がある方にも感染者が増え、そこに熱中症も加わり重症になる患者が劇的に増加する可能性が高いです。

現在のところ、期待されていた治療薬 (アビガン等) にも絶対的なものはなく、ワクチン開発もまだ完成されてはいません。目下のところCOVID-19 に対しては、かからないようにすることが一番大事なのです。

発生患者の多い地域への不必要な移動や、対策（マスク、消毒、ソーシャルディスタンス、換気）ができていない場所や店には行かないこと。感染者の共通点では、特に食事時の会話が原因で、唾液から家族内感染や職場感染を引き起こしています。食事中は、極力会話を控えましょう。観光、旅行等は、治療薬やワクチンの完成を得られない現下では控えるべきと

思います。政府や都の情報だけに囚われない自粛も大事であると思います。また、熱中症にならないよう、水分補給と、エアコン等による室温調整を心がけるようにしましょう。

最後に、感染拡大を防ぐためにも、発熱等の症状がありCOVID-19が心配な方は、直接来院をせずに、まずは電話での相談を頂くように、お願い致します。

チーム桜町 感染症対策への取り組み

新型コロナウイルス感染症との闘いも、すでに6か月が過ぎました。

2019年12月中国武漢より発生し、瞬く間に世界中を脅威にさらした新型コロナウイルス。年が明け、まだ季節性インフルエンザの患者さんが多く受診されている2月初めの頃より、当院でも受診相談がみられ始めました。

すぐに玄関入口で対応するスタッフを増やし、発熱での来院者を水際でキャッチしようと、外来スタッフのみならず、事務職員をはじめコメディカルなど総動員で対応を開始しました。「今日はどうかさいましたか?」「手をお出してください(手指衛生)」など、スタッフが来院者へ声をかけながら、情報収集を現在も行っています。

診療前に体調不良の方へは、「発熱者問診票」で対応し、待合場所や診察室をほかの患者さんと分けています。また、待合室の座席配置を変更し、ソーシャルディスタンスを確保できるようポスターを椅子に貼り、協力をお願いしています。新型コロナウイルス感染症の疑い事例の対応は、外来スタッフのほか、検査科、放射線科、会計事務にも協力をしてもらい、専用の診察室（ゾーニング室）で速やかに診療が進むようONE TEAMで対応をしています。



入院病棟での面会中止は3月上旬に開始以後、今も継続しています。今後も市中における感染状況を確認し判断をしていきますが、しばらくは自由な面会は中止の状態を継続するしかないと考えています。他にも入院患者さんには、「入院までの健康観察」「マスク着用」のお願いや、検査やリハビリテーションを受ける時間の調整など、感染リスクを減らすためのご協力をして頂いております。外来患者さんにも、同じく健康観察へのご協力をお願いしています。

もはや以前のような姿に戻ることは不可能と思い、これから新型コロナウイルスとどう過ごしていくのか、どう対応すべきかを念頭に対応していかなければなりません。未知のウイルスへの対応は判断も難しく、来院者の皆様へはご不便をお掛けしていることばかりと思います。しかし、今後とも病院内にいるすべての方の健康と安全を守るために、ICTメンバーだけでなく、全職員一丸となって「チーム桜町」として、負けずに前を向いて取り組んでいきたいと思っています。

今後とも皆様方のご理解、ご協力をお願いいたします。

(感染制御実践看護師 野澤かおり)

栄養科のおいしい&ヘルシー Recipe

監修: 管理栄養士 松尾敦子

No.7

ナスとしいたけチーズ焼き

梅干しがアクセントとなり、おかずにもおつまみにもなる一品です。野菜はオーブントースターで焼いても良いです。ナスを水にさらすときは長くつけすぎないように! 栄養価が逃げてしまいます。

材 料

2人分(1人分120Kcal)

ナス 1本
しいたけ 4個
梅干し 2個
かつおぶし 大さじ2杯
しょうゆ 小さじ1
油 小さじ2
とろけるスライスチーズ 2枚(ピザ用チーズでも)

作り方

- ①ナスはヘタを取ってたて半分に切り、切り口を下に向けて置き皮の方に格子状になるように切り込みを入れる(火の通りをよくするため)。水にさらし、水気を切る。
- ②しいたけは軸をとっておく。
- ③梅干しは種をとって包丁で細かくたたいてかつおぶし、しょうゆと混ぜておく。



One Point

あらかじめ野菜に油をからませてから焼いた方が少量の油でも焼けます。

- ④ナスとしいたけに油をからませてフライパンで焼く。ナスがなかなか焼けない場合は蓋をして蒸し焼きにしてください。
- ⑤野菜に火が通ったらいったん火を消してナスは皮を下に、しいたけは笠を下にして並べる。
- ⑥ナスとしいたけの笠に③を塗る。
- ⑦⑥の上にチーズをちぎってのせて蓋をする。
- ⑧チーズがとけたらお皿に盛りつけて出来上がりです。

医療のコトバQ&A

第7回「ピロリ菌」②

〈回答者〉内科部長

村田 直樹

Q. ピロリ菌の治療はどんなことをするのですか?

A. 今回はピロリ菌が存在すると診断された場合の除菌治療についてお話しします。除菌治療には一次除菌とそれが不成功であった場合の二次除菌があります。一次除菌治療(ボノサップパック)は胃酸を抑える薬(タケキャブ)とペニシリン系抗生物質(アモキシシリン)とマクロライド系抗生物質(クラリスロマイシン)がセットになったものを7日間で飲みます。耐性菌を作らないためにも指示通りに7日間で飲み切る事が重要です。治療終了後4週間あけて尿素呼気検査を行います。その成功率は約90%です。不成功の場合は二次除菌治療(ボノピオンパック)をおこないます。それはボノサップパックのクラリスロマイシンをメトロニダゾールという抗生剤に置き換えたもので、7日間の治療でピロリ菌はほぼ胃からいなくなります。メトロニダゾール内服中にお酒を飲むと副作用が強くなるため治療の間は禁酒となります。それ以外の治療の副作用は抗生物質のアレルギーがなければ軽微な消化器症状程度と言われています。胃がんリスクを下げる意味でも除菌治療を受ける事をお勧めします。

